

特記仕様書

第1条 適用

受注者は、岐阜県建設工事共通仕様書によるほか、この特記仕様書に基づき施工するものとする。
この設計書の設計積算基準は、令和6年度版土木工事標準積算基準書等を適用している。

第2条 工事着手前協議について

受注者は、すべての工事において、工事開始日以降1～2週間以内に設計書内容等について、監督員と工事着手前協議を行わなければならない。協議に当たっては、「施工打ち合わせ記録簿」（高山市監建設工事監督要領別記様式第3号2）に協議事項を記入し、打ち合わせに持参すること。
監督員は「施工打ち合わせ記録簿」の回答（その他）欄を記入し、受注者にその回答を通知すること。

第3条 地下埋設物の確認について

地下埋設物の近接工事における事故防止は、「地下埋設物の事故防止マニュアル」（令和2年10月 中部地方整備局）に基づき対応すること。

第4条 1日未満で完了する作業の積算について

「1日未満で完了する作業の積算」（以下、「1日未満積算基準」と言う。）は、変更積算のみに適用する。
受注者は、施工パッケージ型積算基準と乖離があった場合に、1日未満積算基準の適用について協議の発議を行うことができる。
受注者は、協議に当って、1日未満積算基準に該当することを示す書面その他協議に必要となる根拠資料（日報、実際の費用がわかる資料等）を監督員に提出すること。

第5条 ワンデーレスポンスの実施について

本工事は、ワンデーレスポンス実施対象工事とする。
実施に当たっては、岐阜県要領「ワンデーレスポンス実施要領」を準用し、これに基づき実施すること。

第6条 電子メールを活用した情報共有について

本工事の施工中における受発注者間の情報共有は岐阜県要領「電子メールを活用した情報共有における運用指針」を準用し、これにより実施すること。
ただし、これにより難しい場合は、工事着手前協議時に監督員と協議のうえ決定すること。

第7条 電子納品の実施について

受注者は、電子成果品を「岐阜県建設工事共通仕様書」、「工事完成図書の電子納品要領」、「岐阜県電子納品運用ガイドライン」等に準拠し作成し、電子媒体で納品することができる。

第8条 デジタル工事写真の小黑板情報電子化について

デジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事とすることができる。
運用は、岐阜県要領、写真管理基準「2-8デジタル工事写真の小黑板情報電子化について」を準用し、これに基づき実施すること。

第9条 下請契約及び使用資材について

受注者は、下請負人を選定するときは、「高山市公契約条例」（平成30年4月1日施行 以下「公契約条例」という。）に基づき、市内に事務所又は事業所を有する者を活用するよう努めなければならない。
また、調達する工事材料は高山市産とするよう努めなければならない。

第10条 下請負人との契約について

受注者は、「建設業法」（昭和24年法律第100号）、「下請代金支払遅延等防止法」（昭和31年法律第120号）、「公契約条例」及びその他関係法令を遵守するとともに、労務費その他の経費の内訳を明らかにした見積りを基に、下請負人との対等な立場における合意に基づいた公正な契約を締結するよう努めなければならない。

第11条 創意工夫・社会性等の実施報告について

受注者は、工事施工において、自ら立案した創意工夫に関する項目について、具体的な内容と実施方法をあらかじめ施工計画書に記述するとともに、実施した創意工夫・社会性等に関する項目の実施状況を工事完了時までに「創意工夫に関する実施報告書」または「社会性（地域への貢献等）に関する実施報告書」に記載し、監督員に提出することができる。

第12条 産業廃棄物の適正処理について

受注者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、「岐阜県建設副産物有効利用及び適正処理実施要綱」及び「高山市建設工事における建設副産物管理の運用について」に従い、産業廃棄物関連書類の提出及び処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物が最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認し、関係書類を監督員に提示しなければならない。

特記仕様書

第13条 不当介入における通報義務について

1 妨害又は不当要求に対する通報義務

受注者は、契約の履行に当たって、暴力団又は暴力団員から事実関係及び社会通念等に照らして合理的な理由が認められない不当若しくは違法な要求又は契約の適正な履行を妨げる妨害を受けたときは、警察へ通報をしなければならない。

なお、通報がない場合は入札参加資格を停止をすることがある。

2 履行期間の延長について

受注者は、暴力団又は暴力団員による不当介入を受けたことにより、履行期間内に業務を完了することができないときは、発注者に履行期間の延長を請求することができる。

第14条 工事請負契約における設計変更ガイドライン（案）について

受注者は「高山市工事請負契約における設計変更ガイドライン（平成27年10月）に基づき照査を実施すること。

第15条 工事書類の作成について

工事施工に伴い、受注者が作成、提出、保存等する書類とその取扱いについては岐阜県要領「工事書類作成提出要領」を準用し、これに基づき実施すること。

第16条 一般的制限値を超える車両の運行について

岐阜県建設工事共通仕様書 1-1-36交通安全管理第13項における道路法47条の2に基づく通行許可の確認において、受注者は関係資料を整理保管するとともに、監督員または検査員の要求があった場合は速やかに提示しなければならない。

特殊車両通行の確認は、「公共工事における大型車の通行適正化に向けた取り組みについて（通知）」（平成29年12月25日付け技第622号/岐阜県通知）によるものとする。

第17条 法定外の労災保険の付保

受注者は、法定外の労災保険に付さなければならない。

第18条 行政情報流出防止対策の強化

1 受注者は、本工事の履行に関する全ての行政情報（個人情報を含む）について適切な流出防止対策をとるものとする。

2 受注者は、本工事で行政情報を取り扱う場合には、行政情報流出防止対策の基本的事項を遵守しなければならない。（関係法令等の遵守）

行政情報の取り扱いについては、関係法令を遵守するほか、本規定及び発注者の指示する事項を遵守するものとする。（行政情報の目的外使用の禁止）

受注者は、発注者の許可無く本工事の履行に関して取り扱う行政情報を本工事の目的以外に使用してはならない。

（社員等に対する指導）

受注者は、受注者の社員等に対し行政情報の流出防止対策について、周知徹底を図るものとする。

（契約終了時等における行政情報の返却）

受注者は、本工事の履行に関し発注者から提供を受けた行政情報（発注者の許可を得て複製した行政情報を含む。以下同じ。）については、本工事の実施完了後または本工事の実施途中において発注者から返還を求められた場合、速やかに直接発注者に返却するものとする。

（行政情報の管理体制の確保）

受注者は、行政情報を適正に管理する体制を確保しなければならない。

（行政情報の電子的な取り扱い）

受注者は、本工事の実施に際し、行政情報の電子的な取り扱いをしてはならない。

（事故の発生時の措置）

1）受注者は、本工事の履行に関して取り扱う行政情報について何らかの事由により情報流出事故にあった場合には、速やかに発注者に届け出るものとする。

2）この場合において、速やかに、事故の原因を明確にし、セキュリティ上の補完措置をとり、事故の再発防止の措置を講ずるものとする。

3 発注者は、受注者の行政情報の管理体制等について、必要に応じ、報告を求め、検査確認を行う場合がある。

第19条 まんなかホリデーの取組について

1 受注者は「建設現場の週休2日」の普及および浸透に向けて、週休2日制工事の適否に関わらず、土曜日の休工に努める「まんなかホリデー（中部地区統一の一斉休工）」に取組むものとする。

なお、本取組は強制的な休工や工程の調整を求めるものではない。

2 休工とは、現場事務所での事務作業を含め1日を通して現場や現場事務所が閉所されている状態をいう。

（巡回パトロールや保守点検等現場管理上必要な作業を行う場合を除く）

第20条 以下の特記仕様は、条件明示により指定されたものを適用する。

1. 週休2日制工事

本工事は、完全週休2日を原則とした週休2日制工事（現場閉所）です。詳細は「高山市発注の建設工事に係る週休2日制工事実施要領」を参照してください。

2. フレックス工期

1 本工事はフレックス工期による契約方式の試行工事であり、受注者は契約日から工事開始期限日までの期間で、任意の日を工事開始日とすることができる。この場合、契約日から工事開始日の前日までの期間は、主任技術者又は監理技術者、特例監理技術者、監理技術者補佐及び現場代理人を配置することを要しないものとする。

特記仕様書

- 2 受注者は、フレックス工期を活用する場合は次のとおり実施するものとする。
 - (1) 落札決定の通知後、契約締結日までの間で速やかに工事開始日を通知するものとする。
 - (2) 積算にあたっては、契約日を起算日とした工期日数分を工事期間としており、受注者が施工時期を選択することにより生じる経費については、受注者の負担とする。
 - (3) 契約日から工事開始日の前日までの現場管理は、発注者の責任において行うこととし、受注者は資材の搬入や仮設物の設置等の行為をしてはならない。
 - (4) 受注時の「工事実績コリンズ登録」は、工事開始日後に監督員の確認を受け、工事開始日から、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に登録機関に登録申請しなければならない。
なお、登録する技術者の従事期間は、実工期をもって登録するものとし、フレックス期間は含まないものとする。
 - (5) 「現場代理人・技術届」は経歴書を添付して工事開始後、速やかに提出しなければならない。
 - (6) 契約締結後に工事開始日を変更する必要がある場合には、速やかに発注者及び受注者で協議のうえ、工事開始日通知書の変更を提出し、変更契約を締結すること。
 - (7) 低入札価格調査等により、入札執行通知又は入札公告に記載の工事開始期限日以降に契約締結となった場合には、契約締結日を工事の始期とし、工事の終期は工事開始期限日から工期日数を確保した日とする。

第21条 工事情報共有システム(ASP)の使用について

1. 本工事で工事情報共有システムを利用する際は、「岐阜県情報共有システム運用要領」を参照すること。
2. 本工事での工事情報共有システムを利用する場合は、ASPサービス業者との契約は、受注者が行うものとする。
なお、利用するASPサービスは、岐阜県情報共有システム運用要領第6条の使用条件を満たしていること。
3. 受注者は、工事情報共有システムを利用する場合は、初回打ち合わせ時に契約するASPサービス業者について報告を行うこと。

特記仕様書（条件明示）

下記項目、事項のうち○印該当欄は、工事施工にあたって制約等をうけることになるので明示する。なお、明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約が生じたときは、甲（市）と協議し適切な処置を講ずるものとする。

施工条件

明示項目		明示事項	制約条件等	チェック欄	
				係長	担当
工程関係	関連工事	関連する他の工事の工期（施工時期）			
		関連する他の工事の内容			
	施工の制限	施工内容			
		施工時期			
		施工時間			
		施工方法			
		工事の抑制期間（交通規制）			
	対外協議未了事項	未了協議の内容			
		制約を受ける内容			
		協議成立の見込み時期			
	協議条件	協議で付された特定条件の項目			
		協議で付された特定条件の影響範囲			
	余裕工期設定工事	工事の着手時期			
	事前調査	地下埋設物・埋蔵文化財等の事前調査			
		項目			
		調査期間			
		埋設物等の移設予定時期（見込み時期）			
	休日日数	○ 休日日数	週休2日制		
		作業不可能見込み日数			
用地関係	工事用地の未買収（未処理）	場所			
		範囲			
		処理の見込み時期			
		未買収地への立入り可否			
	工事用地の復旧	工事用地等の使用後の復旧内容			
	工事用地の借地	工事用仮設道路及び資機材置場の借地			
		場所			
		範囲			
		期間			
		使用条件			
		復旧方法			
		工事に必要な土地の借地料			
	仮設ヤード（消波根固めブロック、桁製作等）	施工者に使用させる仮設ヤード			
		場所			
		範囲			
		期間			
		使用条件			
		復旧方法			
公害関係 （環境対策）	工事に伴う公害防止対策	公害防止（騒音、振動、粉塵排出ガス等）のための指定事項			
		施工方法			
		建設機械・設備			
		作業時間等の指定			
	水替・流入防止施設	防止施設の内容			
		設置期間			
	濁水、湧水処理対策	処理施設の内容			
		処理条件の内容			
	事業損失	事前・事後調査の区分			
		調査時期			
		調査方法			
		調査範囲			
		調査項目			
	六価クロム溶出試験	対象工種・工法			
		試験実施段階・検体数			

施工条件

明示項目		明示事項	制約条件等	チェック欄	
				係長	担当
安全対策関係	交通安全施設等	指定の内容			
		指定の期間			
	近接施工	鉄道、ガス、電気、電話、水道情報管路等との近接施工			
		施工方法			
		作業時間			
	防護施設	防護施設の内容			
	交通誘導員等	交通誘導員・保安要員の配置指定			
		場所			
		期間			
		時間			
		(配置) 人数			
		交替要員の有無			
		発破作業等の保全設備			
		発破作業等の制限内容			
	換気設備等	換気設備等の対策内容			
工事用道路関係	一般道路の使用	資機材搬入経路			
		資機材搬出経路			
		使用期間			
		時間帯			
		使用中・使用後の処置内容			
	仮設道路の設置	安全施設等の設置内容			
		安全施設等の設置期間			
		工事終了後の存置方法			
		工事終了後の撤去方法			
		維持補修の内容			
仮設備関係	仮設物の引き渡し・引継	仮設物の引き渡し・引継の内容			
		仮設物の引き渡し・引継の期間、時期			
		仮設物の引き渡し・引継の条件			
	仮設備の構造	仮設備の構造			
		仮設備の施工方法			
		仮設備の設計条件			

施工条件

明示項目		明示事項	制約条件等	チェック欄	
				係長	担当
建設副産物関係	建設発生土（受入）	残土受入場所又は仮置場所			
		位置			
		処理量			
		運搬距離・経路			
		搬入時間制限			
		処理・保管条件			
	建設発生土（搬出）	残土受入場所又は仮置場所			
		位置			
		処理量			
		運搬距離・経路			
		搬入時間制限			
		処理・保管条件			
	現場内の再利用・減量化	再利用・減量化の内容			
		使用場所（現場内等）			
	建設副産物及び廃棄物の処理	処理方法			
		受入施設名			
		処理場所			
		受入時間			
		受入条件			
		運搬距離			
	建設副産物及び廃棄物の処理	処理方法			
		受入施設名			
		処理場所			
		受入時間			
		受入条件			
		運搬距離			
	建設副産物及び廃棄物の処理	処理方法			
		受入施設名			
		処理場所			
		受入時間			
		受入条件			
		運搬距離			
工事支障物件等	占用物件等の工事支障物件の存在	占用物件の有無			
		工事支障物件			
		支障物件			
		管理者（所有者）			
		支障物件の位置			
		支障物件移設時期			
		支障物件工事方法			
		支障物件防護方法			
	占用工事との重複	重複する占用物件工事の内容			
		重複する占用物件工事の期間			
棄液注入関係	設計・施工条件	設計条件			
		工法区分			
		材料種類			
		施工範囲			
		削孔数量			
		削孔延長			
		注入量			
		注入圧			
	周辺環境調査	環境調査の内容			

施工条件

明示項目		明示事項	制約条件等	チェック欄	
				係長	担当
その他	工事用資機材の保管及び仮置き	保管・設置場所			
		保管期間			
		保管方法			
	現場発生品	品名			
		数量			
		引渡し場所			
		再使用の有無			
	支給材料及び賃貸借品	品名			
		数量			
		品質			
		規格寸法又は性能			
		引渡し場所			
		引渡期間			
	架設（仮設）工法の指定	施工方法			
		施工条件			
	工事用電力の指定	内容			
	新技術・新工法等の指定	新技術・新工法・特許工法の内容			
	工事材料・資材の使用	県産材の優先利用可能の有無			
		リサイクル認定製品の優先利用可能の有無			
	調査試験に対する協力	公共事業労務費調査			
		諸経費動向調査			
		施工合理化調査、施工形態動向調査、施工状況モニタリング調査			
		施工実態調査			
	立木伐採	○ 対象範囲	後日指示		
		○ 処理方法	後日指示		
		受入施設名			
		処理場所			
		受入時間			
		受入条件			
	設計内容の未検討項目	運搬距離			
		未検討内容			
	技術者の配置	検討終了時期			
		本工事の主任技術者は専任とする			
	行政情報流出防止対策（個人情報を含む）	行政情報の内容			
		行政情報の使用目的			
		行政情報の管理体制			
		行政情報の返却			
	モデル工事等	建設現場環境改善モデル工事			
		週休2日制モデル工事			
		建設キャリアアップシステム活用モデル工事			
		若手及び女性技術者育成型総合評価落札方式モデル工事（入札参加条件）			
		若手及び女性技術者育成型総合評価落札方式モデル工事（総合評価方式）			
		I C Tを活用したモデル工事（発注者指定型）			
		I C Tを活用したモデル工事（施工者希望型）			
		フレックス工期（任意着手方式）			
		フレックス工期（発注者指定方式）			
		人材育成型総合評価落札方式モデル工事			
		BIM/CIM適用工事（発注者指定型）			
		BIM/CIM適用工事（受注者希望型）			
		A S P方式の情報共有システム利用工事			
		建設現場における遠隔臨場実施工事			
	その他	○ 起工測量	起工測量結果を速やかに報告し、監督員と打合せを行うこと		

分収林整備工事特記仕様書	
項 目	特 記 事 項
第 1 章 総 則	<p>本工事の施工にあつては、岐阜県建設工事共通仕様書によるほか、この特記仕様書によるものとする。</p>
第 2 章 工事の内容	<p>1. 目的 この工事は、適切な森林整備を通じて公益的機能の発揮を図ることを目的として施工するものである。</p> <p>2. 工事場所・工事概要 別紙金抜き設計書のとおり</p> <p>3. 週休 2 日制工事の実施 本工事は、完全週休 2 日を原則とした週休 2 日制工事（現場閉所）です。詳細は「高山市発注の建設工事に係る週休 2 日制工事実施要領」を参照してください。</p>
第 3 章 施 工	<p>1. 一般事項 この工事の区域は、監督員より確認する。 隣接地との境界が不明確な場合は、隣接地の所有者と協議し施工するものとし、その場合、監督職員と協議するものとする。</p>
第 4 章 施工管理	<p>1. 施工管理 請負者は、「岐阜県建設工事施工管理基準」に準拠し施工管理するものとする。</p> <p>2. 工事記録写真撮影 （1）一般事項 ①工事の施工順序に従い、必要に応じて、または監督職員の指示によって、記録写真を整備し、工事の完了後または必要な都度提出しなければならない。 ②撮影にあたっては、標準地番号等を明示する黒板をたて、ポール、スタッフ、スケール等によって位置・寸法を表示するものとする。 ③写真はカラー撮影、デジタルカメラによる撮影を原則とし、写真帳は A 4 版アルバムとする。</p> <p>（2）撮影場所 ①森林整備 標準地の施工状況、造林木の育成状況等</p>

	<p>②その他必要と認めたもの及び監督職員に指示されたもの。</p> <p>3. 安全訓練等の実施</p> <p>(1) 本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について工事着手前、原則として作業員全員の参加により月あたり半日以上時間を割り当て、下記の事項から実施内容を選択し、安全・訓練等を実施するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安全活動ビデオ等の資料による安全教育 ②本工事の内容の承知徹底 ③土木工事等施工技術安全指針等の周知徹底 ④本工事における災害対策訓練 ⑤本工事現場で予想される事故対策 ⑥その他、安全・訓練として必要な事項 <p>(2) 安全・訓練等の実施状況を写真及び実施報告書等により報告するものとする。</p>
第5章 竣工時の確認等	<p>1. 確認</p> <p>工事の完了に伴い、工事の施工精度を監督職員の立会いを得て確認しなければならない。</p> <p>2. 竣工時提出物</p> <p>監督職員の指示するものとする。</p> <p>3. 目印テープ等の撤去</p> <p>工事完了後、監督員の指示により期日までに測量や選木時に設置した目印テープ等について撤去すること。</p>
第6章 条件変更の補足説明	<p>この工事の施工にあたり、設計図書等に明示されていない施工条件について、予期することができない特別な状態が生じた場合の施工条件の変更については監督職員と協議するものとする。</p>
第7章 定めなき事項	<p>この仕様書に定めていない事項、または本工事の施工にあたり、疑義が生じた場合は、必要に応じ監督職員と協議するものとする。</p>

1. 施工前後の工事記録写真

- イ 工事記録写真撮影にあたっては、森林整備工事特記仕様書-第4章の2の（1）の②の要領により撮影したものその他、同一箇所にて黒板、ポール、スタッフ、スケール等のないものを撮影し、データにて提出すること。

2. 起工測量

- イ 起工測量は、箇所毎に行うこと。
- ロ 測点には測点番号を記した杭を設置すること。

3. 森林整備

（1）全般

- イ 間伐の実施にあたっては、安全に関する各種法令、作業基準を遵守し、区域の状況を十分把握して、安全かつ適切な作業となるよう実施する。

（2）伐倒作業

- イ 伐倒は、間伐木以外の造林木を損傷しないよう注意する。
- ロ 伐倒した間伐木は、かかり木とならないように注意するとともに、かかり木となった場合は、安全な作業方法により、適切に処理する。
- ハ 出水時等に災害の原因とならないよう、伐倒した間伐木の枝を払い、間伐木が移動しないよう安定させる。また、公道・林道・作業道や谷等へ落とし込みは行わない。
- ニ 歩道、作業道及び林道等の周辺は、伐倒した間伐木が通行の支障とならないように注意する。
- ホ 倒伏木、傾斜木等の伐倒にあたっては、はね返り等に備え、退避場所を確保するなど十分注意して行う。

(3) 鋸断作業

- イ 鋸断は、伐倒した間伐木の枝と梢頭部を切り落とし、現地の地形に応じた適当な長さに切断し接地させる。
- ロ 斜面での鋸断は、鋸断後材が転がる危険性があることから、対象木の上方で作業を行うなどの作業位置に留意する。

(4) 片付作業

- イ 片付は、鋸断した間伐木が転落、流出しないよう移動、整理し、水平方向に並べ安定させる。
- ロ 急傾斜地での片付は、伐根等を使用し安定させる。

(5) 集材作業

- イ 集材は、伐倒した間伐木を造材地点等まで木寄せする。
- ロ 集材は、造林木を損傷しないよう注意するとともに、地表の損傷を極力抑えるよう留意する。

(6) 造材作業

- イ 造材は、集材した間伐木の枝を幹面に沿って平滑に切断し、梢頭部を切り落とすとともに、一定の長さに切断する。
- ロ 造材した間伐木は下方に転落・流出しないように伐根等に安定させる。
- ハ 造材は、直近の木材市況を参考に有利採材に努め、造材結果は集積材積野帳等に整理する。

(7) 運材作業

- イ 運搬先は、設計の距離圏内において発注者が指定した共販所及び原木市場、中間土場、製材工場等とする。
- ロ 市場価値の高い用材から優先的に運材する。